

女性医師・研究者支援基金

女性医師・研究者支援基金につきまして、多大なるご支援、ご協力を賜りましたことを心より感謝申し上げます。これからの社会において多くの女性医療人たちが活躍できるよう、深いご理解とご関心をお寄せくださる皆様から賜りましたご芳志に深謝するとともに重ねて心からお礼申し上げます。多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献するために役立てて参ります。今後共、何卒ご支援とご鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

ご寄付合計金額 **34,360,000円** (平成23年12月末現在)

ご芳名一覧(五十音順) 平成22年8月から平成23年12月末まで

- | | | | |
|-----------|----------|-----------|----------|
| ○ 新井 達雄様 | ○ 加藤 明男様 | ○ 佐藤 明様 | ○ 中尾 聡子様 |
| ○ 磯野 和子様 | ○ 上條 順子様 | ○ 佐藤 倫子様 | ○ 西蔭 美和様 |
| ○ 伊東 香様 | ○ 川田 仁子様 | ○ 水津 礼子様 | ○ 松永 幸子様 |
| ○ 梅岡 智子様 | ○ 河鍋 楠美様 | ○ 瀬山 俊一様 | ○ 宮本 美紀様 |
| ○ 大坪 裕美様 | ○ 菅野 喜與様 | ○ 高木 成子様 | ○ 八木 統子様 |
| ○ 大野 広子様 | ○ 木島 澄子様 | ○ 高崎 イツ子様 | ○ 山崎 ゆみ様 |
| ○ 大森 克子様 | ○ 久我 みよ様 | ○ 竹重 博子様 | ○ 山田 雄三様 |
| ○ 岡田 真由美様 | ○ 金野 真一様 | ○ 玉熊 和子様 | ○ 横内 載子様 |
| ○ 尾崎 祐吉様 | ○ 坂田 仁様 | ○ 千葉 智世様 | ○ 匿名32名 |



東京女子医科大学
Tokyo Women's Medical University

女性医師・研究者支援センター

アニユアルレポート

Support Center for Women Health Care Professionals and Researchers

2012,3,1



女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援し、子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立しつつ、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



募集要項

目的 : 女性医師・研究者支援事業のための経費

目標額 : 3億円

対象 : 法人:1口の金額を特に定めておりません
個人:1口2万円
(多数のご支援をいただけますと幸いです。)

* 申込方法、振込方法、免税措置(企業等法人、個人)など、寄付に関する詳細につきましては、下記までお問い合わせください。お願いします。

東京女子医科大学
女性医師・研究者支援センター
<http://www.twmu.ac.jp/w-support/>

〒162-8666 東京都新宿区河田町8-1
TEL : 03-3353-8111 (内線39919)
FAX : 03-5369-8687
E-mail : w-support.bm@twmu.ac.jp

ごあいさつ

女性医師・研究者支援センター センター長



遺伝子医療センター
所長・教授 斎藤加代子

わが国の意思決定権を持つ女性の割合を示す指数Gender empowerment measureは、世界109カ国の57位であり、この背景は「ガラスの天井glass ceiling」、「水漏れパイプleaky pipeline」に例えられます。女性研究者、女性教員のロールモデルの不在が(女性)医師不足の原因のひとつとして挙げられます。勤務継続できる環境整備をすること、多様で優れた女性医師・研究者の活躍を促進することは、わが国における医師不足の対策として喫緊の課題です。平成18年度からの文部科学省科学技術振興調整費による女性研究者支援の成果を生かし、女性医師・研究者支援の充実をめざして、平成21年度に「男女共同参画推進局(局長:学長)」の下に「女性医師・研究者支援センター」が発足しました。女性医師のキャリア形成において、子育て支援と多様な勤務形態の整備による支援を行っております。子育てと研究の両立実施

が可能な体制を構築し、困難に直面する女性医師に研究の遂行や診療の継続を可能とするシステム形成を行っております。院内保育所において、昼間保育、延長保育、夜間保育、休日保育、そして病児保育を充実させてきました。待機児保育としての院内保育所を産休・育休明けに利用して、早期の職場復帰がなされて来ています。さらに本年度は、より細やかな、オーダーメイドとも言えるファミリーサポートによる子育て支援策を開始しました。

本学の卒業生(至誠会員)、教職員、学生の父母の皆様からの温かいご支援として、「女性医師・研究者支援基金」「佐竹高子女性医学研究者研究奨励金」「宮原敏基金(平成24年度以降開始)」の対象者が選考され業績を築き始めました。これらを含み、多様な勤務形態の整備による支援も充実して参りました。厳しい時期にも医学研究、医療を継続するという女性医師自身とその周囲の意識改革の進展という効果が出てきていると思います。

当事者である女性医師自身が自己を磨く意識を高め、医学・医療を通して社会への貢献と還元をしていく自覚が男女共同参画の実現には重要であると考えます。これらの支援を受けた女性医師達が後輩にとっての良いロールモデルとなり、次は後輩を支援して行くという正の循環(連鎖)が続いて行く事を願っております。

女性医師・研究者支援センター副センター長



女性生涯健康センター
副所長・教授 檜垣祐子

女性医師の割合は、現在若い世代では、30%台を占め、これからの医療を女性医師が相当程度担うこととなります。その一方で、若い世代の女性医師が高率に離職し、大学病院を去っているのも現実です。離職理由はさまざまですが、多くの場合、直接的な理由は妊娠・出産、育児であることが種々の調査からも裏付けられています。

女性医師の離職の背景には、女性の価値観が多様化し、仕事、家庭人、趣味、など複数の方向性があり、必ずしも仕事が優先されないことや、わが国には伝統的性別役割分担意識が根強く、たとえ医師という特別な資格を持っていても、女性が家庭にとどまることを社会が容認しやすいことがあります。また、過重労働・長時間勤務の職場には、育児中や心身の不調などを抱えた場合、「ついていけない」に加え、現場にもゆとりがないためカバーしきれない現状があります。

女性医師の離職を防ぎ、復職を促すことは、女性医師の問題にとどまらず、勤務医の増加や就労環境の改善につながり、昨今の「医療崩壊」を食い止める手立ての1つとなると考えます。その実現のためには、仕事を継続するための支援や離職者の再研修システムの整備、就労環境の改善が重要と思われます。

本学は長い歴史と伝統を持つ、女性のための医科大学であり、数多くの女性医師を輩出し、早くからさまざまな女性医師の就労支援システムを構築していることから、学外からも注目されています。

女性医師の就労支援については、多様な短時間勤務制度を整備しています。具体的には、妊娠・出産、子育ての時期にあたる医療練土研修生を対象とした短時間勤務制度を設けました。また、助教以上を対象とした短時間勤務制度では介護など、子育て以外の理由にも配慮しています。また、宮原 敏先生の基金による、臨床上的特殊技能などの取得のための短時間勤務制度もスタートしました。これらの制度を活用して、女性医師がその資質を十分に生かし、医療の担い手となって長期にわたって、活躍することが期待されます。女性医師が継続的に医師としての責務を果たすことができるよう、当センターでは多面的なサポートを行って参ります。皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

女性医師・研究者支援センター副センター長



総合研究所
准教授 竹宮 孝子

全国的に男女共同参画の活動が進む中、女性医師の活躍が注目されつつあります。これには、現代の医師不足問題も深く関係しており、医師全体に対する女性医師の割合が年々増えていることから、女性医師への期待感がさらに高まっていると考えられます。一方で、若手女性医師にとって、医師の仕事と育児の両立は昔から変わらぬ課題として存在しています。近年これらの両立のための調査が数多く実施され、保育支援、勤務形態の多様性(短時間勤務やワークシェアなど)、職場の意識改革、研究支援、キャリア教育などが重要かつ重要であるという調査結果が多数発表されてきました。このような背景において、適切な体制作り、支援制度の定着、そしてその制度を活用した上での成果すなわち女性医師の活躍が全国的な課題となり、その実行・実現が求められています。

本学は全国に先駆けて様々な試みを精力的に行ってまいりました。その中でも、女性医師・研究者支援センターは仕事と育児を両立しながらキャリアを継続するための支援を多角的に行い、多くの女性医師の離職を防ぎ支えてきました。これまでの本学の体制作りは全国から注目され、本学を参考にして女性医師支援を導入している施設も数多くあると聞いています。

東京女子医大はこれからも先頭を走るランナーであることを自覚し、時代に応じたニーズに柔軟に対応しつつも諸先輩方が築きあげてこられた医師としての基本的な姿勢や伝統を大事にしながらか後輩医師の育成に尽力したいと考えています。これからも温かいご支援、ご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。



概要

事業報告

多くの指導的立場となる優れた女性医師・研究者を育成し、価値ある業績を積み重ね、将来の日本の医療に貢献することを旨として、平成21年4月に「女性医師・研究者支援センター」を設立致しました。
子育てなどのライフイベントと診療・教育・研究を両立し、キャリア形成を継続できる環境を整備します。



活動報告

2011

- 1月13日(木) 院内保育所ミーティング
- 13日(木) ファミリーサポート運営検討会
- 13日(木) 佐竹高子女性医学研究者支援対象者審査
- 19日(水) 男女共同参画型NICU人材養成プログラム打合せ(ファミリーサポート)
- 25日(火) 文科省「大学教育改革プログラム合同フォーラム」
- 2月4日(金) 自治医科大学より院内保育所見学
- 8日(火) 院内保育所ミーティング
- 15日(火) 男女共同参画型NICU人材養成プログラム打合せ(ファミリーサポート)
- 3月3日(木) ファミリーサポート運営検討会
- 5日(土) 第11回日本内分沁学会関東甲信越支部学術集会(講演)
- 8日(火) 院内保育所ミーティング
- 19日(土) 研究発表会・交流会/女性外科系医師のシンポジウム「外科医としての私の歩み」東日本大震災のため4月23日(土)に延期
- 4月5日(火) 院内保育所ミーティング
- 7日(木) ファミリーサポート運営検討会
- 23日(土) 研究発表会・交流会/女性外科系医師のシンポジウム「外科医としての私の歩み」
- 23日(土) 第84回日本内分沁学会学術総会(クリニカルアワー講演)
- 5月11日(水) 第9回運営委員会
- 13日(金) 院内保育所ミーティング
- 14日(土) 至誠父母会 女性医師・研究者支援基金の紹介
- 19日(木) 第84回日本産業衛生学会第13回就労女性健康研究会(口演)
- 19日(木) 第84回日本産業衛生学会・ポスターセッション
- 6月1日(水) 東医療センター訪問(院内保育所設置)
- 13日(月) 女性医学研究者支援対象者、宮崎学長を訪問
- 21日(火) 院内保育所ミーティング
- 7月6日(水) 院内保育所ミーティング
- 9日(土) ファミリーサポート運営検討会
- 19日(火) 宮原敏基金・女性臨床医師支援の短時間勤務の取り扱い執行運営会議にて承認
- 23・24日(土・日) 第21回全国病児保育研究大会・ポスターセッション
- 8月2日(火) 院内保育所ミーティング
- 14日(日) 第114回日本小児科学会学術集会(講演)
- 9月6日(火) ファミリーサポート運営検討会
- 9日(金) 院内保育所ミーティング
- 12日(月) 第10回運営委員会
- 16日(金) 院内保育所バザー
- 30日(金) 下記募集要項発表
・宮原敏基金・女性臨床医師支援短時間勤務対象者募集
・女性医学研究者への支援対象者募集
- 10月4日(火) 院内保育所ミーティング
- 14日(金) 病院運営会議にて支援対象者募集の資料を配布
- 18日(火) ファミリーサポート運営検討会
- 21日(金) 医学部教授会にて支援対象者募集の資料を配布・説明
- 28日(金) 医局長会議にて支援対象者募集の資料を配布
- 11月1・2日(火・水) 女性研究者研究活動支援事業合同公開シンポジウム
- 3日(木) 女子中高生のためのサイエンスカフェ開催
- 8日(火) 院内保育所ミーティング
- 13日(日) 第56回日本未熟児新生児学会学術集会・市民公開講座シンポジウム「安心して子どもを産み・育てられる日本を目指して」
- 12月12日(月) 日本私立大学連盟・平成23年度男女共同参画推進に関するシンポジウム
- 13日(火) 院内保育所ミーティング
- 13日(火) ファミリーサポート運営検討会
- 21日(水) 東京慈恵会医科大学による本学女性医師支援状況の視察、院内保育所見学

センターの事業

女性医師の診療継続および女性研究者の研究活動を支援する事業を行います。

- キャリア形成支援事業> 女性医師・研究者の育成支援
- 勤務体制検討事業> 勤務体制、勤務環境の検討と整備
- 保育支援事業> 院内保育所の充実、ファミリーサポートの運営支援
- 他大学との連携事業> 学内外の女性医師・研究者同士の情報交換の場の構成
- 社会への啓発事業> センターの広報



女性医師・研究者支援センターのホームページにも様々な情報を掲載しています。ぜひご覧ください。

<http://www.twmu.ac.jp/w-support/>

2010

- 8月3日(火) 院内保育所ミーティング
- 9日(月) 男女共同参画型NICU人材養成プログラム打合せ(ファミリーサポート)
- 14日(土) 男女共同参画型NICU人材養成プログラム外部評価委員会
- 14日(土) ファミリーサポート運営検討会
- 29日(日) 第33回日本母胎児医学会・学術集会 特別講演
- 9月1日(水) 女性医学研究者(第2期)の支援開始
- 7日(火) 院内保育所ミーティング
- 7日(火) ファミリーサポート運営検討会
- 15日(水) 院内保育所バザー
- 18日(土) APEC・WLNサイドイベント・シンポジウム・ポスターセッション
- 21日(火) 第7回運営委員会
- 29日(水) 東京医科大学より院内保育所見学
- 10月1日(金) ファミリーサポート室開所式
- 5日(火) 院内保育所ミーティング
- 9日(土) ファミリーサポート運営検討会
- 11月5日(金) 岐阜県医師会 東京女子医科大学における女性医師支援紹介(講演)
- 18日(木) ファミリーサポート運営検討会
- 15日(月) 慶應義塾大学医学部学生実習のため来校
- 24日(水) 男女共同参画型NICU人材養成プログラム打合せ(ファミリーサポート)
- 12月11日(土) 私立大学合同シンポジウム(日本私立大学連盟)
- 11日(土) 私立大学合同シンポジウム(日本私立大学連盟)・ポスターセッション
- 13日(月) 第8回運営委員会
- 17日(金) 佐竹高子女性医学研究者支援対象者募集締切

事業報告

研究発表会・交流会、女性外科系医師のシンポジウムを終えて (平成23年4月23日)

女性医師・研究者支援センター センター長 齋藤加代子 副センター長 竹宮孝子

4月23日(土) 総合外来センター5階大会議室において、女性医師・研究者支援センター、厚生労働省成育医療研究「女性医療従事者の支援に関する研究」研究班、文部科学省周産期医療環境整備事業、本学総合研究所の共催で、研究発表会・交流会と女性外科系医師のシンポジウムを開催しました。当日は雨天にも関わらず、午後1時30分から5時までの研究発表会・シンポジウムに宮崎俊一学長をはじめ総勢91名(学生44名)が、その後の交流会には47名の方がご参加くださいました。ご出席いただいた皆様およびスタッフの皆様には、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

研究発表会では、本学の近藤恵里氏(座長:齋藤加代子)と西井明子氏(座長:三谷昌平氏)が研究成果を発表し、野原理子氏(座長:楠田聡氏)が女子医大ファミリーサポートの取組を報告しました。学生は、育児と研究を両立させ研究成果を出していく先輩医師の姿に力強さを感じ、本学の女性医師支援には頼もしさや安心を実感したようです。女性外科系医師のシンポジウム「外科医としての私の歩み」(座長:竹宮孝子)では、乳腺外科を専門とする川瀬和美氏、明石定子氏、児玉ひとみ氏が、常勤で家庭と仕事を両立させる秘訣などをお話くださいました。外科医としての高い目標、強い意志、柔軟な考え方、明るく前向きに素直に物事に取り組む姿勢、そして家族や周囲に対する感謝の気持ちが伝わってきました。多くの参加者から、今回の研究発表会・交流会、シンポジウムから大きな勇気とエネルギーをもらったという感想を頂きました。当センターでは、今後もこのようなキャリア教育セミナーを企画していきたいと考えています。皆さまのご理解とご協力を宜しくお願いいたします。

(大学ニュース平成23年5月号より)



女子中高生のためのサイエンスカフェ開催の報告 (平成23年11月3日)



遺伝子医療センター 助教 近藤恵里

日本人類遺伝学会男女共同参画審議委員会と東京女子医科大学の共同開催事業として、女子中高生のためのサイエンスカフェ「広がる医学」～先端医学研究へのお誘い～が11月3日(木)に開催されました。“女子中高生の科学研究に関わる夢・興味育成”を目的とし、将来、科学研究者や医師を目指すきっかけともなるような楽しい企画を試み、以下のようなプログラムで行われました。出席者は中学1年から高校2年までの44名、都内を中心とした公立・私立校から多数の出席でした。宮崎俊一学長、中村祐輔教授(東大医科研教授)のご挨拶に引き続き、前半は大和雅之先生、齋藤加代子先生より最先端医療をわかりやすく解説いただいた後、学年別に6つのグループに分かれ、講演に関する感想や意見を交換しました。各グループのファシリテーターとして川上順子先生(第一生理学教授)、岡田みどり先生(化学教室教授)、岩崎直子先生(糖尿病センター准教授)、竹宮孝子先生(総合研究所准教授)、山内あけみ先生(遺伝子医療センター非常勤講師)、浦野真理先生(遺伝子医療センター臨床心理士)にご協力いただき、飲み物とお菓子を囲みながら和やかなディスカッションが繰り広げられました。後半では、生徒さんたちの将来の夢や進路の悩みなどを取り上げ、ファシリテーターの先生方が順番に、「大先輩からのメッセージ」をお話くださいました。どのような気持ちでこれまでを歩まれてきたか、進路を決める際のアドバイスなどのお言葉に、眼を輝かせて聞き入る生徒さんたちの表情がとても印象的でした。本会の運営にご協力いただきました先生方、および男女共同参画推進局のスタッフの方々に感謝申し上げます。(大学ニュース平成23年12月号より)

女子中高生のためのサイエンスカフェ 「広がる医学」 先端医学研究へのお誘いプログラム



- 総合司会 近藤恵里氏 (遺伝子医療センター)
- 開会挨拶 宮崎俊一学長
- ご挨拶 中村祐輔氏(日本人類遺伝学会元理事長、東京大学医科学研究所教授)
- 講演 「再生医療ってどんな医療？」
大和雅之氏(先端生命医科学研究所 教授)
- 講演 「遺伝子医療って知ってる?～科学と患者さんの架け橋～」
齋藤加代子氏(遺伝子医療センター 教授)
- グループディスカッション・発表・質問
- 前半総括 「未来の医療ってどうなるの？」
江上美芽氏(先端生命医科学研究所客員教授)、 中村祐輔氏
- 休憩
- 交流タイム
- 「将来の夢と希望：アンケート結果発表」・・・ 近藤恵里氏
- 「生徒たちへ 大先輩からのメッセージ」
- 後半総括 「医学における活躍の多様性」
川上順子氏 (第一生理学教授)
- 閉会挨拶 齋藤加代子氏



業績

論文発表

著者名	タイトル	誌名
野原理子, 松岡雅人, 斎藤加代子	医科大学および同附属医療施設の勤務医師のワーク・ライフ・バランスに関する認識の男女比較	東京女子医科大学雑誌 2010;80(12):386-393
Nohara M, Momoeda M, Kubota T, Nakabayashi M	Menstrual Cycle and Menstrual Pain Problems and Related Risk Factors among Japanese Female Workers.	Ind. Health 2011;49:228-234
佐々木綾香, 伊藤恵理子, 野原理子, 富澤康子	女子医学生における出産・育児の現況—アンケート調査から—	東京女子医科大学雑誌 2011;81(2):116-120
堀 貞夫	眼科医局での男女共同参画の取り組みについて	日本の眼科 2011;82(12):1635-1636
児玉ひとみ, 竹宮孝子, 斎藤加代子, 大澤真木子, 岡本高宏	女性外科医に必要な育児支援	日本臨床外科学会雑誌 2011;72(12):2989-2994

学会発表

演者	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
斎藤加代子	特別講演	第33回日本母体胎児医学会学術集会	女性医師のキャリア形成 東京女子医科大学における男女共同参画	東京	2010.8.29
斎藤加代子	ポスター	APEC-WLNサイドイベント・シンポジウム「自分らしく生きる(キャリア)ー女性の経済活動への参画と自立ー」	東京女子医科大学における男女共同参画ー女性医師・研究者のキャリア形成ー	東京	2010.9.18
斎藤加代子	ポスター	日本私立大学連盟 平成22年度男女共同参画推進に関するシンポジウム	東京女子医科大学における男女共同参画推進局 女性医師・研究者支援センターの取組	東京	2010.12.11
肥塚直美	講演	第11回日本内分科学会関東甲信越支部学術集会, 女性医師専門医育成	女性医師専門医育成・再教育委員会 (JES We Can) の活動状況	横浜	2011.3.5
肥塚直美	クリニカルアワー講演	第84回日本内分科学会学術総会	内分科学会の女性会員の動向	神戸	2011.4.23
野原理子	口演	第84回日本産業衛生学会第13回就労女性健康研究会	防災イツモカード	東京	2011.5.19
野原理子, 加藤郁子, 松岡雅人	ポスター	第84回日本産業衛生学会	育児期の男女労働者におけるワークライフバランス実現のための育児支援に関する研究	東京	2011.5.19
野原理子, 梅野愛子, 斎藤加代子	ポスター	第21回全国病児保育研究大会	東京女子医大モデルー病児保育室とファミリーサポートの連携ー	大分	2011.7.23-24
榎垣祐子	講演	日本医師会 第7回男女共同参画フォーラム	ターニングポイントにある医師を育てるー仕事を継続するー再研修システムを含めてー	秋田	2011.7.30
斎藤加代子	講演	第114回日本小児科学会学術集会	総合シンポジウム5女性研究者の新たな飛躍の為に「女性医師のキャリア形成支援から男女共同参画へ」	東京	2011.8.14
斎藤加代子	ポスター	女性研究者研究活動支援事業 合同公開シンポジウム	女性研究者支援に向けた持続可能な取組の実現ー「モデル的取組」から「研究とライフイベントの両立」へー	東京	2011.11.1-2
斎藤加代子, 野原理子	シンポジウム講演	第56回日本未熟児新生児学会学術集会	東京女子医科大学「男女共同参画型NICU人材養成プログラムー地域とささえあう周産期医療ー 合同企画 市民公開講座シンポジウム「安心して子供を産み・育てられる日本を目指して」 東京女子医科大学男女共同参画型NICU人材養成プログラムー地域とささえあう周産期医療ー プログラムの概要	東京	2011.11.13

その他

氏名	機関	名称	役職
野原理子	文部科学省	基盤研究(C)一般, 2011ー2013年度, 勤務医のタイムスタディによる客観的勤務実態解析指標の開発	研究代表者
竹宮孝子, 立石実	東京女子医科大学	東京女子医科大学再教育センター 教育・学習支援プログラムe-ラーニング「いま 頑張っている若手外科医」	
竹宮孝子	厚生労働省	2009-2011年度 女性医療従事者の支援に関する研究	分担研究者

論文発表

著者名	タイトル	誌名
Minori Tateishi, Takeshi Hiramatsu, Yasuko Tomizawa, Goki Matsumura, Takeshi Konuma, Kenji Yamazaki, Hideshi Yamamura, Toshio Nakanishi	Cardiac tamponade due to perforation by an Amplatzer atrial septal occluder in a patient with Marfan syndrome	Journal of Artificial Organs 2011;14(3):261-3
Noritoshi Fukushima, Katsuhisa Matsuura, Hiroshi Akazawa, Atsushi Honda, Toshio Nagai, Masano Takahashi, Akiko Seki, Kagari Murasaki, Tatsuya Shimizu, Mitsuo Okano, Nobuhisa Hagiwara, Issei Komuro	A crucial role of activin A-mediated growth hormone suppression in mouse and human heart failure.	PLoS ONE 2011, in press.

学会発表

演者	区分	研究会・学会名	タイトル	開催場所	年月日
西井清雅, 関明子, 小林靖, 柴田洋三郎	口演	第33回日本分子生物学会年会	胎生初期心拍動に異常を示す遺伝子変異マウスの心拍動パターン解析. Motion analysis of initial contraction patterns of the mutant mice with defects in heartbeat.	東京	2010.12.8
西井清雅, 関明子, 小林靖, 柴田洋三郎	口演	第88回日本生理学会大会 第116回日本解剖学会総会・全国学術集会 合同大会.	発生初期心拍動に異常を示す遺伝子変異マウスの心拍動画像解析. Motion analysis of initial heart contractions of mutant mice with heartbeat defects.	横浜	2011.3.28
Noriko Matsushita, Ikuko Haruta, Naoko Yanagisawa, Hidehiro Ueshiba, Miyuki Omori-Miyake, Junji Yagi	ポスター	International Union of Microbiological Societies 2011 Congress (国際細菌学会)	Pathogenesis of non-alcoholic fatty liver disease in HCD-fed mice inoculated with LPS	Sapporo	2011.9.30
松下典子, 橋本悦子, 徳重克年	シンポジウム口演	JDDW-(Japan Digestive Disease Week-) 2011	NAFLDにおける肥満度からみた臨床病理学的検討	福岡	2011.10.20
Matsushita N, Hassanein T. M, Ueno A, French W.S, Karin M, Machida K, Tsukamoto H	ポスター	The 6th International Symposium on ALPD and Cirrhosis	Hepatocyte IKKβ deficiency aggravates obesity-associated insulin resistance and NASH in male but not female mice: potential role of suppressed Sult1e1	福岡	2011.10.21
Matsushita N, Hashimoto E, Tokushige K, Mizuno A, Kodama K, Kogiso T, Taniai M, Torii N, Shiratori K	ポスター	The 62nd Annual Meeting of the American Association for the Study of Liver Disease	Characteristic feature of NASH divided by body mass index; genetic background, clinicopathological features, radiological analysis and adipocytokines	San Francisco	2011.11.7
Noritoshi Fukushima, Katsuhisa Matsuura, Hiroshi Akazawa, Atsushi Honda, Toshio Nagai, Masano Takahashi, Akiko Seki, Kagari Murasaki, Tatsuya Shimizu, Mitsuo Okano, Nobuhisa Hagiwara, Issei Komuro	口演	American heart association, Scientific Sessions 2011.	Inhibition of Activin A is the Novel Therapeutic Target for Heart Failure.	Orlando, FL, USA	2011.11.14

その他

氏名	機関	名称
立石実	メディカ出版	こどもの心臓病と手術ー不安なパパ・ママにイラストでやさしく解説/患者説明にそのまま使えるー
竹宮孝子, 立石実	東京女子医科大学	東京女子医科大学再教育センター 教育・学習支援プログラムe-ラーニング「いま 頑張っている若手外科医」
松下典子	東京女子医大会	第23回山川寿子研究奨励賞 非アルコール性脂肪肝炎の病因・病態に及ぼす性差の機序の検討
松下典子	日本消化器病学会女性医師・研究者の会	米国における子育てと研究の両立: アメリカ子育て&研究奮闘記 日本消化器病学会女性医師・研究者の会10周年記念誌2002-2011の歩み

著者名	タイトル	誌名
斎藤加代子	子育て支援とワークシェアで女性研究者をサポート	Medical Tribune
斎藤加代子	女性医師のキャリア継続支援に取り組む	Medical Tribune 2008;41(19):52-53
斎藤加代子	女性医師の支援をー東京女子医大の取組みー	元気がいいねNo.50
斎藤加代子	女性医師研究者の多様な勤務体制	最新医療経営 フェイズ・スリー 2009;301:19

キャリア

形成支援

短時間勤務

女性医師・研究者支援センターにおける短時間勤務の検討を基盤に、男性にも視野を広げて検討するため、男女共同参画推進局の作業部会として「働き方の多様性を考える委員会」を設立し、下記短時間勤務の取扱いを制定いたしました。

- (1) 臨床系教員の短時間勤務制度
- (2) 医療練士研修生の短時間勤務制度

女性医師支援

女性臨床系教員のキャリア形成支援と女子医大の将来を担う優れた教員確保を目的に「宮原敏基金による女性臨床医師支援」がスタートいたしました。短時間常勤勤務により、ゆとりのできた時間をキャリア形成のために活用する支援です。将来的に大学に貢献する事を目指し、具体的な1年間の目標(専門医取得、学位取得、特殊な臨床技術獲得、論文作成等)を設定します。

女性研究者支援

優れた女性医学研究者への研究と育児両立のための支援を行っています。みなさまから頂いた女性医師・研究者支援基金および佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による支援です。今年度は3名が利用し、学会発表・論文作成を行いました。

短時間勤務取得者からのメッセージ

少子化対策として、国や自治体が出産・育児制度の経済的補強を行っているが、子育てが負担に感じられる最大の理由は、お金ではなく時間だと思う。入局当初は、ベビーシッター・家政婦・院内保育をフル利用して産後8週の復職が当たり前だった。いつしか、私もそうしなければいけないと思うようになり、育児休暇を2ヶ月頂いた後ろめたさを感じながら、先輩方と同じように頑張った。しかし、ほどなく体調を崩して気持ちが折れそうになった。それでも前に進まねばと、復帰して第二子出産まで大学で常勤を続けた。成長に伴い多様化する子育ては、大変さが二倍以上に感じられたが、頑張れば何とかかなと思っていて、自分さえ頑張ればという働き方が家族の負担と気づいたとき、旦那は崖っぷちの状態だった。平成20年8月、短時間勤務制度が発足すると知り、早速採用していただいた。私の専門であるぶどう膜炎の症例が多数集まる大学で、臨床を続けられたことが大変で、ご理解ご支援くださった医局の皆様から感謝している。短時間勤務になって、子育てで大切なのは時間の使い方だと知った。定時に帰宅できれば、体力的・精神的・時間的にゆとりがあり、子供と過ごす時間に笑顔でいられた。お蔵入りになっていた論文を仕上げたり学会発表をしたり、仕事にも好影響であった。思い返せば、ハーバード大学留学時代の同僚達は週3日出勤で効率よく実験し、育児の傍ら自宅で勉強と論文執筆に励み、立派な成果をあげていた。ワークライフバランスを保つ鍵は時間の工夫だと知っていたのだろう。今後は女性に限らず、育児・介護・学位申請など、誰もが状況に応じて働き方を調整しながらキャリアを継続できる男女共同参画社会になることを願う。



眼科
陳麗理



女性医学研究者からのメッセージ



循環器内科
西井 明子

女性医師・研究者支援センターに特任助教として採用していただいて2年目に入りました。私は循環器内科に入局後、不整脈の発生機序について、細胞電気生理学を用いた研究をして参りました。緊急性の高い症例を多く扱う循環器内科に所属しながら、臨床・研究・子育てを両立することは大変厳しいことです。支援センターに所属させて頂いたことで、研究の時間を確保することができ、研究を進めることができたことに、大変感謝しております。また、常勤として扱って頂き、研究費を与えて頂くという恵まれた境遇において、研究が続けられたことは、本当にありがたいことと思っております。それだけに責任の重さも痛感しておりました。長男が4歳になった今年、思いがけず第2子を妊娠し、妊娠初期から、ひどい悪阻と切迫流・早産のため、安静を余儀なくされました。残念ながら長期に休養することになってしまい、支援センターのスタッフの先生方を始め、ご支援頂いたたくさんの方々にご迷惑をおかけする結果となってしまいました。この秋からは、研究助手の方に来て頂いて、少しずつではありますが研究を続けております。おかげ様で、早産で産まれた長女も元気に育っております。女性の一生には、様々なことが起こりますが、それを乗り越えて、自分の目標に近づけるよう、これからも努力して参りたいと存じます。



消化器内科
松下典子

この度は、女性医師研究者支援対象者としていただけましたことに深く御礼申し上げます。私は、東京女子医科大学大学院消化器内科教室にて肝臓分野を研究させていただき、同教室助手を経て、夫の研究留学きっかけに、家族で渡米させていただきました。教室の先生方より渡米後も研究の継続を勧めいただき、肝星細胞(伊東細胞)による肝線維化メカニズムの解明、非アルコール性脂肪肝炎のマウスモデルにおける病態、機序の研究に携わるチャンスに恵まれました。米国におけるワーキングマザーのスタイル、育児に対する社会体制などからも学びつつ、当時、双子の息子たちは3歳で手がかりましたが、お陰様で両立にこぎつけることができました。帰国が決定し、帰国子女である子供達を抱えて、消化器内科学教室で勤務復帰できないものかと模索しておりました際に、教授よりご推薦いただくことができ、この支援システムに出会うことができました。子育てと共に、研究を継続していきたいという願いを受け入れていただきまして、心より感謝いたしております。現在、消化器内科学教室で非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFD)を始めとする肝疾患の臨床研究に携わり、NAFLDマウスモデルにおいて微生物免疫学教室の先生方と共同研究をさせていただいており、トランスレーショナルリサーチを目指しております。さらに、女性医師・研究者支援センター長をはじめ、センター御兼任いただいている学内各分野の先生方にお目にかかる機会があり、研究について、また、仕事と子育ての両立についてもアドバイスいただける環境であることに感謝し、今後とも、御支援のもと研究に邁進させていただきたく存じます。



心臓血管外科
立石 実

私は2000年に心臓血管外科に入局し、その後一途に心臓血管外科をやって参りました。2008年に出産し、その後もキャリア継続を目指して、手術や当直をやっていましたが、次第に仕事と育児の両立に限界を感じ、一旦は心臓血管外科を辞めることも考えました。しかし、医局のご厚情を賜り一旦非常勤として働き、その後更に、2011年度の佐竹高子女性医学研究者研究奨励金によるご支援を頂き、女性医師・研究者支援センターの特任助教として採用して頂いたことを、心から感謝しております。ハードワークの心臓血管外科で子育てをしながら、フルタイムの先生方と同様に働くことが難しい中、短時間勤務で臨床にも関わりつつ、フレックスタイムで臨床に活かせるような研究もできる環境は、本当にありがたいことです。御支援頂いた成果を早くアウトプット出来るよう、現在奮闘中です。また、これまでこのようなシステムを築いて下さった先輩方に感謝し、これからは特に外科系の女性医師のキャリア形成や、男女に関わらず医師の職場環境改善などに、微力ながらお手伝いさせて頂いて、後に続く方へのパトタッチができればと思っております。現在、3歳の娘が1人おります。今後も、様々な壁にぶつかることがあるかと思いますが、多くの皆様から支えられながら、そして、支えて下さる方々への感謝を忘れず、仕事を続けていきたいと思っております。

東京女子医科大学では 短時間勤務で子育て・キャリア形成を応援しています!

多彩な支援を用意しています。

出産・育児でこれまで通りの勤務は無理かも...

イクメンとして育児に参加したい

働きながら学位を取得したいのだけど...

研究と育児の両立をしたいわ

<h3>臨床系教員の短時間勤務制度</h3>	<p>育児や介護等で通常の勤務が困難な臨床系教員への支援 助教以上の臨床系教員で継続的な勤務が困難な者で、小学6年までの子の育児を必要とする者 男性医師も可</p>	<p>1回の申請で 原則として身分は現職</p> <p>1年までの取扱いを認める 最長3年のまま</p>	<p>5日の勤務で36時間 4日の勤務で32時間 4日の勤務で28時間 3日の勤務で28時間 宿日直は月1回を原則とする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 原則各診療科の定員内、但し定員オーバーしている診療科においては各診療科の助教定員の1割増まで認める ● 診療科長は医療施設長の承認を受けた上で申請書を人事課に提出する
<h3>医療練士研修生の短時間勤務制度</h3>	<p>医療練士研修生(大学院生を除く)の子育て支援 医療練士研修生(大学院生を除く)で、小学6年までの子の育児を必要とする者 男性医師も可</p>	<p>1回の申請で 原則として身分は現職</p> <p>1年までの取扱いを認める 最長3年のまま</p>	<p>5日の勤務で36時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 左記の短時間勤務の場合も、5年間で研修終了とみなす ● 診療科長は医療施設長の承認を受けた上で申請書を人事課に提出する
<h3>宮原敏基金による女性臨床医師支援</h3>	<p>女性臨床系教員のキャリア形成支援、女子医大の将来を担う優れた教員の確保 准講師以上あるいは卒後10年以上の優れた女性臨床系教員</p>	<p>原則として身分は申請申請時の診療支援センター</p> <p>1年まで 時の職制とする療科と女性医師・研究者を兼務とする</p>	<p>5日の勤務で36時間 4日の勤務で32時間 4日の勤務で28時間 3日の勤務で28時間</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 定員に満たない診療科は本制度を利用できない 本支援にかかる費用は宮原敏基金から充当される ● 年1回募集・審査を行う必要書類を揃え、男女共同参画推進局女性医師・研究者支援センターへ提出 ※必要書類等の詳細は、ホームページに掲載
<h3>女性医師・研究者支援基金による女性医学研究者支援</h3>	<p>優れた女性医学研究者への研究と育児両立のための支援 下記の条件を満たす女性医学研究者 ・研究受入れ部署が決まっていること ・研究テーマが決まっていること ・支援終了後本学の常勤勤務に復帰できること</p>	<p>1年間の支援 最大限3年 女性医師・特任助教</p> <p>後、業績評価を受ける 研究者支援センターの</p>	<p>短時間勤務(フレックス制) 週30時間以上の勤務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 給与(月額19.5万円)と研究消耗品費(年間30万円)を支給する ※括弧内は平成23年度実績 ● 年1回募集・審査を行う必要書類を揃え、男女共同参画推進局女性医師・研究者支援センターへ提出 ※必要書類等の詳細は、ホームページに掲載
<h3>佐竹高子女性医学研究者研究奨励金による女性医学研究者支援</h3>	<p>優れた女性医学研究者への研究と育児両立のための支援 下記の条件を満たす女性医学研究者 ・研究受入れ部署が決まっていること ・研究テーマが決まっていること ・支援終了後本学の常勤勤務に復帰できること</p>	<p>1年間の支援 最大限3年 女性医師・特任助教</p> <p>後、業績評価を受ける 研究者支援センターの</p>	<p>短時間勤務(フレックス制) 週30時間以上の勤務</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 給与(月額19.5万円)と研究消耗品費(年間30万円)を支給する ※括弧内は平成23年度実績 ● 年1回募集・審査を行う必要書類を揃え、男女共同参画推進局女性医師・研究者支援センターへ提出 ※必要書類等の詳細は、ホームページに掲載

保育支援

保育所とファミリーサポート室が連携し、充実した保育支援体制を整備しています。



保育所利用者数

2011年	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
昼間保育	530	555	631	366	349	425	419	424	398	414	419	409
延長保育	116	149	138	71	93	122	125	136	141	108	119	100
夜間保育	61	83	83	63	70	69	80	69	52	80	70	65
休日保育	21	27	17	13	18	16	22	12	15	16	25	9
病児保育	23	19	16	33	9	39	38	27	42	62	47	43

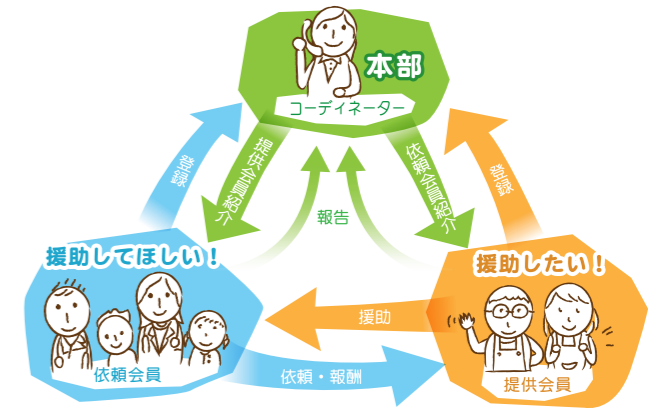
1日の生活



ファミリーサポート

職員が仕事と家庭を両立するための一環として、地域の人々から子育て支援を受け、家族の福祉の向上を図ることを目的とした、会員相互の援助活動です。

依頼会員 32名 提供会員 60名
※2011年12月31日現在



依頼会員

依頼内容	2011年5月～12月 (件)
保育園等の入所前の預かり	3
保育園・幼稚園の登園前の預かりと送り	50
保育園・幼稚園の送り	14
保育園・幼稚園の迎え	72
保育園・幼稚園の迎えと帰宅後の預かり	8
保育園・幼稚園・学校等のお休み時の預かり	21
他の子どもの学校行事、通院時の預かり	4
保護者の臨時的就労時の預かり	21
習い事、塾などの送迎	4
保護者のリフレッシュなどの外出時の預かり	2



提供会員

保育サービス講習会講義	計29.5時間
開校式・オリエンテーション	0.5時間
保育のこころ	2時間
子どもの心の発達とその問題	3時間
子どものあそび	3時間
障害を持った子どもの預かり	2時間
子どもの栄養と食生活	3時間
子どものくらしとケア	2時間
子どもの事故と安全	2時間
からだの発達と病気	3時間
病児保育とリスクマネジメント	2時間
保育サービスを提供するために	2時間
普通救命講習	3時間
病児保育施設見学	1時間
修了式	1時間



ファミリーサポート室

- スキルアップ研修会**
 - 第1回2011年 2月9日 一般的な注意事項と守秘義務
 - 第2回2011年 9月15日 心構えとリスクマネジメント
- 全体研修会**
 - 第1回2011年 1月11日 今後の子育て支援に求められるもの - 「みんなで子育てできる社会」のために私たちにできることは? - 講師 柏女雲峰先生 淑徳大学総合福祉学部教授、日本子ども家庭総合研究所子ども家庭政策研究担当部長
- 全体交流会**
 - 第1回2011年 5月14日 ゲスト: 劇団風の子大森靖枝さん
 - 第2回2011年 11月26日 ゲスト: リコーダーカルテット 松浦孝成さん・有田まり子さん・吉田潤子さん・滝本美由紀さん